

# 分身ロボで授業参加

鳥取県教育委員会は2019年度、学校で授業が受けられない病気療養児の遠隔教育支援を拡充する。遠隔操作ロボット「OriHime」を計8台リースし、子どもたちに使用してもらい授業参加に役立てるとともに、円滑な学校復帰につなげる狙い。

19年度一般会計当初予算案に事業費660万円を盛り込んだ。

オリヒメはオリイ研究所（東京都）が開発した高さ約30センチの人型ロボット。カメラ、マイク、スピーカーを搭載し、タブレット端末で遠隔操作し、手を挙げる、首を振るなどの動作や音声出力が可能。家や病院にいながら、オリヒメを通じ学校行事への参加や友人と会話できる。

## 療養児支援へ活用拡充



鳥取県内では県と日本財団（東京都）の支援プロジェクトの一環で、2017年に3台をリース。鳥取大

台数を増やし鳥取県内の特別支援学校などで拡充される「OriHime」。(資料)

## 鳥取県教委「学校復帰スムーズ」

病院院内学級と皆生養護学校（米子市）、鳥取養護学校（鳥取市）に1台ずつ貸し出し、18年度終了まで試行的に使用している。

3校でのオリヒメの活用では、授業に参加して友人との交流が保てる、学級の雰囲気に分かり復帰が円滑だったとの感想が寄せられ、県は効果があると判断し3台から8台へリース台数を増やすことを決めた。

県教委特別支援教育課によると、1台月4万円の経費でリースし、貸し出し先は変えずに8台を振り分け、同大病院院内学級と、両養護学校に常備。長期療養が必要な小中高生を対象に活用してもらう。要望があれば他校に貸し出しもするという。県教委の山本仁志教育長は「有効に活用してもらい、スムーズな学校復帰につなげてもらいたい」と述べた。

(糸賀淳也)